



外枠をつけると発電量が増え騒音は減る（福岡県春日市）＝写真 小高顕

## そよ風集め黙々と発電

福岡県内にある九州大学のキャンパスに、風変りな小型風力発電機が登場した。約14メートルの高さにある3つの白い輪の中で羽根が勢いよく回るが、近づいても地面にある発電機以外の音はほとんど聞こえない。

「マルチロータ風車」と呼ぶ発電機の実験装置で、風速3メートルの弱風でも発電する。風速10メートルの場合、同じサイズの通常の風車に比べて2.5倍の発電量を誇るが、作動音は25%小さいという。九大と同大発のベンチ

ャー、リアムウィンド（福岡市）が開発した。

高い発電効率と静けさの秘密は、羽根の周りにある直径3.5メートルの輪だ。「輪で風を集めて加速させ、発電量を増やす」と九大の大屋裕二教授は説明する。輪の壁は騒音の原因となる風切り音を吸収する。

三輪風車は2017年春の発売を目指し、将来は大型化も検討している。今は認証試験に備え、くるくると準備体操をしているかのようだった。（庄司容子）

**快走**  
大学発ベンチャー

①